

沢活動実施の7つのポイント

その1

ねらいを明確にした活動計画をたてましょう。

沢は、訪れるだけで大満足できる場所です。しかし、このような自然環境が減少している昨今、いつでも何度でも沢にでかけるといいうわけにはいきません。だからこそ限られた時間でも、1回だけでも、沢の魅力が活用できるような体験を目指したいものです。それには「**何のために実施するのか**」そのねらいをはっきりさせることが大切です。

その2

指導者(団体責任者)は事前の
 実地踏査(下見)を行いましょ。

引率して沢活動をする場合、その団体の指導者(団体責任者)は実地踏査(下見)を行いましょ。実地踏査は実際の活動場面において**指導者に安心感をもたらす、事故を防ぐこと**につながります。活動によって実地踏査の視点は異なりますが、沢の地形を見ながら、ねらいにあわせて「なにを(仲間づくりや自然観察等)どこで(滝や屈曲点等)どのように(資料や助言等)」実施するのか、**計画した活動を実際やってみる**ことが一番です。

【参考】

この資料集の2頁〜3頁に実地踏査の目安となるコースタイムを示しています。活動情報等を用いて指導者自身が実地踏査を楽しむことが、楽しい活動を提供することにつながります。

その3

事前説明や事前学習の
 機会を設けましょ。

沢での活動を、ビーチサンダルや水着着用のみで実施したり、「短時間だから」と安易に考え、靴下を履かなかつたために靴擦れができて、活動に集中できなかったり、という例がありました。大人でも「沢という自然環境」をイメージできない場合もあります。どのような活動をするのか、そのためにどのような服装が必要なのか、自然の家を訪れる前に「服装や装備の重要性について」子どもたちにしつかり伝える場を設けることで、事故防止だけでなく、充実した活動を目指すことができます。自然の家での活動を、**日常での生活や事前事後の学習活動につなげる展開**にすることで、活動の効果が更に高まります。

【参考】

沢という自然環境によって促される子どもたちの様々な興味・関心に対応できるよう、服装・装備は万全の体制で臨みましょう。沢活動は、花山の沢と身近な水環境を比較するチャンスです。指導者の言葉かけや事前調査等の学習活動によって、違いや共通点、それぞれの良さ、身近な水環境の改善点やそのために自分ができること等を意識する機会を持つことができます。各活動の資料には、事前事後の展開にもふれています。

その4

直前の沢情報を得てから活動に向かいました。

自然の環境は刻々と変化していきます。沢はそれが顕著です。沢活動を実施する日が快晴でも、それ以前に雨が降っていたら、活動に適さない水量である場合が多々あります。逆に、ずっと雨が降っていたのに、いつの間にか水の濁りが無くなり、水量もそれほど増えていないときがあります。

【参考】

自然の家に問い合わせて、現地情報を入手しましょう。さらに、自然の状況にあわせて柔軟に動ける体制をつくっておく必要があります（天候の変化を想定した事前実地踏査と服装・装備、コープ変更時の活動展開や指導者の配置の工夫、等）。

その5

安全面についての最終確認や指導は、沢の環境を見せながら行いましょう。

自然の家では、沢活動の注意事項を「沢に到着してからスタートする前」に、説明するようにしています。**沢の状況を見ないと、予測できない危険場面もあります。**実際沢の環境をみて、動きやすい石があることや流れが速いことを子どもたちに見せながら、何に注意すれば楽しく沢活動が実施できるか再確認する機会をつくりましょう。

【参考】

沢周辺は場所が限られていて、沢の水音もあるので説明しにくいかもしれませんが、グループに分ける、動作を交えて説明する等工夫することができます。

その6

「環境に配慮」するという視点を活動の展開に取り入れてください。

自然の家が持つ「**環境に配慮**」するという視点は2つの方向性があります。一つは、花山周辺の沢を守りたいということ、もう一つは、沢を活用することで、日常生活でも「環境に配慮」するという意識につなげたいということです。沢活動を実施してみてどうだったのか、「自分の家の近くの川にも入ってみようと思っただ」等、**活動した沢と自分の身近な環境が関係していることがわかるような展開を目指していただきたい**と思います。

【参考】

活動終了後にそれぞれが感想を述べた時、「水がきれいだった」「水がきれいだった」等の感想が出たらチャンスです。そこで終わらせず、なぜきれいなのか、自分の周囲の環境と比べてどうなのか、等の問いかけが子どもたちの考える機会につながります。

その7

ふりかえりや事後学習の機会を設けましょう。

身近な環境と沢の環境との違い、計画したことを実際やってみてどうだったか等、ねらいにあわせて活動をふりかえる機会を設けましょう。それが、**次の学習や活動につながります。**

【参考】

ふりかえって体験したことを考えたり、他の人の考えを聞いたりすることは、沢活動をその後の活動や日常につなげるために意義があります。また、事後学習を実施することで、ねらいが達成しやすくなる場合があります。